

解答例

専攻名	電子情報通信学専攻(一般選抜)
試験科目名	専門科目 ①電気回路

I

問1

(解) 回路方程式は, $E = (R + jX)i$ であるので

$$i = \frac{E}{R + jX} = \frac{E(R - jX)}{R^2 + X^2} = \frac{ER}{R^2 + X^2} - j \frac{EX}{R^2 + X^2}$$

問2

(解)

$$\dot{P} = E^* i = E \left(\frac{ER}{R^2 + X^2} - j \frac{EX}{R^2 + X^2} \right) = \frac{E^2 R}{R^2 + X^2} - j \frac{E^2 X}{R^2 + X^2}$$

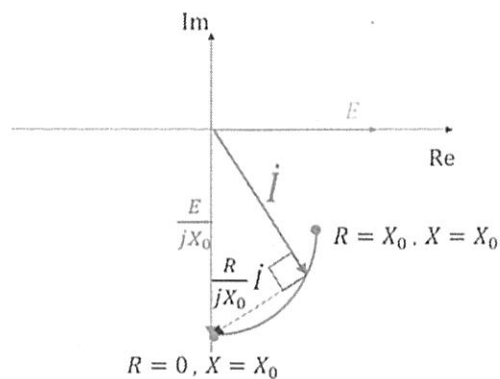
問3

(解) 回路方程式は

$$E = (R + jX_0)i = Ri + jX_0i \quad \text{両辺を } jX_0 \text{ で割って}$$

$$\frac{E}{jX_0} = \frac{R}{jX_0}i + i$$

したがって, i に対して 90 度遅れた $\frac{R}{jX_0}i$ を足すと, $\frac{E}{jX_0}$ になるので,



円弧が i の軌跡である。

解答例

専攻名 電子情報通信学専攻(一般選抜)

試験科目名 専門科目 ①電気回路

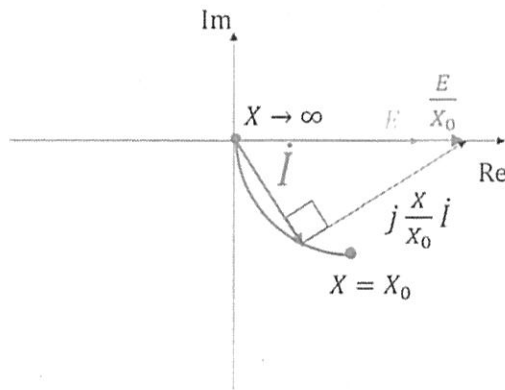
問4

(解) (a) 回路方程式は

$$E = (R + jX)i = Ri + jXi = X_0i + jXi \quad \text{両辺を } X_0 \text{ で割って}$$

$$\frac{E}{X_0} = i + j\frac{X}{X_0}i$$

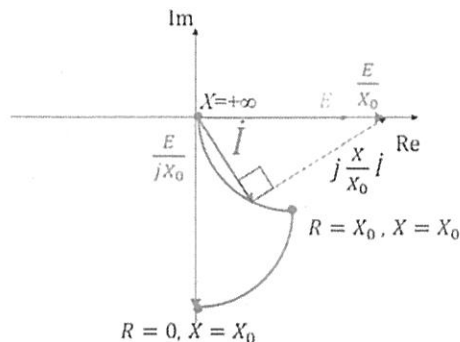
したがって、 i に対して90度進んだ $j\frac{X}{X_0}i$ を足すと、 $\frac{E}{X_0}$ になるので、下記の円弧が求める軌跡



問5

(解)

$0 \leq R \leq X_0$, $X_0 \leq X \leq +\infty$ の範囲において、電流 i の軌跡は問3, 4を合算した以下の扇形内となる。



有効電力は、電圧 E と $\text{Re}[i]$ の積となる。そのため有効電力が最大になるのは、

$R = X_0$, $X = X_0$ のときである。

このとき

解答例

専攻名	電子情報通信学専攻(一般選抜)
試験科目名	専門科目 ①電気回路

$$E = (R + jX_0)i = Ri + jX_0i$$

$$i = \frac{E}{R + jX_0} = \frac{E}{X_0 + jX_0} = \frac{E}{X_0} \frac{1}{1 + j} = \frac{E}{X_0} \frac{1}{\sqrt{2}e^{j\frac{\pi}{4}}} = \frac{E}{\sqrt{2}X_0} e^{-j\frac{\pi}{4}}$$

力率は E と i の位相角差から

$$\cos\left(-\frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{\sqrt{2}} = 0.7071 \sim 0.707$$

(別解) 有効電力 P_a は問2の実部であり,

$$P_a = \frac{E^2 R}{R^2 + X^2}$$

これが最大となる条件は X に対しては単調減少なので X がなるべく小さく ($X = X_0$), かつ

$$\frac{\partial P_a}{\partial R} = 0$$

$$\frac{\partial P_a}{\partial R} = \frac{E^2(R^2 + X^2) - E^2 R \cdot 2R}{(R^2 + X^2)^2} = \frac{E^2(X^2 - R^2)}{(R^2 + X^2)^2} = 0$$

よって $R = X = X_0$

これは $0 \leq R \leq X_0$ の範囲内にある。

問6

(解)

皮相電力が最大の条件は, E が一定なので $|i|$ が最大の条件である。

$$E = (R + jX)i$$

$$|i| = \frac{E}{|R + jX|} = \frac{E}{\sqrt{R^2 + X^2}}$$

よって $\sqrt{R^2 + X^2}$ が最小になればよい。 R, X がそれぞれ最小の値は $R = 0, X = X_0$ であるので,

$$|i| = \frac{E}{\sqrt{R^2 + X^2}} = \frac{E}{\sqrt{0^2 + X_0^2}} = \frac{E}{X_0} \text{ [A]}$$

皮相電力の最大値は

$$E|i| = \frac{E^2}{X_0} \text{ [VA]}$$

令和5年度（10月期）及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験
解答例

専攻名	電子情報通信学専攻（一般選抜）
試験科目名	専門科目 ②電子回路

I

問1 S1を開いているとき、 Z_c に電流が流れないため Z_c を考慮する必要がない。図2の動作モデルから以下の関係式が得られる。

$$v_{out} = -r_o(g_m v_{in})$$

$$A = \frac{v_{out}}{v_{in}} = -g_m r_o$$

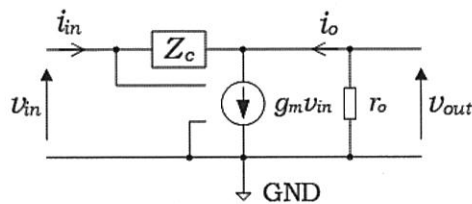
問2 S1を閉じているとき、以下の回路方程式から $Z_{in}(\omega)$ が求められる。

$$\begin{cases} v_{out} &= A v_{in} \\ v_{in} - v_{out} &= Z_c i_{in} \end{cases}$$

$$v_{in} - A v_{in} = Z_c i_{in}$$

$$Z_{in}(\omega) = \frac{v_{in}}{i_{in}} = \frac{Z_c}{1 - A}$$

問3 S1を閉じているとき、小信号等価回路から以下の回路方程式が得られる。さらに、回路方程式から $G(\omega)$ を求めることができる。



$$\begin{cases} v_{out} &= -r_o i_o \\ v_{in} - v_{out} &= Z_c i_{in} \\ i_{in} + i_o &= g_m v_{in} \end{cases}$$

$$\frac{v_{in} - v_{out}}{Z_c} - \frac{v_{out}}{r_o} = g_m v_{in}$$

$$G(\omega) = \frac{v_{out}}{v_{in}} = -\frac{g_m - \frac{1}{Z_c}}{\frac{1}{Z_c} + \frac{1}{r_o}} = -\frac{1 - \frac{1}{g_m Z_c}}{1 + \frac{r_o}{Z_c}} g_m r_o$$

令和5年度（10月期）及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験
解答例

専攻名	電子情報通信学専攻（一般選抜）
試験科目名	専門科目 ②電子回路

問4 図3よりインピーダンス Z_c が以下のように求められる。

$$Z_c = R + \frac{1}{j\omega C}$$

問3で求めた $G(\omega)$ に上式を代入して、電圧利得 $G(\omega)$ を g_m , r_o , R , C で表す。

$$G(\omega) = -\frac{1 - \frac{1}{g_m \left(R + \frac{1}{j\omega C} \right)}}{1 + \frac{r_o}{R + \frac{1}{j\omega C}}} g_m r_o = -\frac{1 + j\omega C \left(R - \frac{1}{g_m} \right)}{1 + j\omega C (r_o + R)} g_m r_o$$

$G(\omega)$ は、 $j\omega$ の1次有理関数であるため、直流電圧利得 G_0 、コーナー角周波数 ω_z , ω_p を用いて以下のように表すことができる。

$$G(\omega) = \frac{1 + j\omega/\omega_z}{1 + j\omega/\omega_p} G_0$$

以上の結果から、直流電圧利得 G_0 、2個のコーナー角周波数 ω_z , ω_p が以下のように求められる。

$$G_0 = -g_m r_o, \quad \omega_z = \frac{1}{C \left| R - \frac{1}{g_m} \right|}, \quad \omega_p = \frac{1}{C (r_o + R)}$$

ω_z は、符号を含めて、下記のように求めてもよい。

$$\omega_z = \frac{1}{C \left(R - \frac{1}{g_m} \right)}$$

問5 g_m, r_o, R, C は正の有限値であるため、以下の条件において $\omega_z \rightarrow \infty$ となり、有限の周波数帯域に現れなくなる。

$$R = \frac{1}{g_m}$$

問6 問5で求めた条件において、 $\omega_z \rightarrow \infty$ となるため、 $G(\omega)$ は下記のように表せる。

$$G(\omega) = \frac{1}{1 + j\omega/\omega_p} G_0$$

令和5年度(10月期)及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解答例	
専攻名	電子情報通信学専攻(一般選抜)
試験科目名	専門科目 ②電子回路

ユニティゲイン角周波数を ω_u とするとき、 $|G(\omega_u)| = 1$ である。

$$|G(\omega_u)| = \frac{1}{\sqrt{1 + (\omega_u/\omega_p)^2}} |G_0| = 1$$

$|G_0| = g_m r_o \gg 1$ であるので、 ω_u が以下のように求められる。

$$\omega_u = \omega_p \sqrt{|G_0|^2 - 1} = \frac{\sqrt{(g_m r_o)^2 - 1}}{C(r_o + R)} \left(\simeq \frac{g_m r_o}{C(r_o + R)} \right)$$

解答例

専攻名 電子情報通信学専攻(一般選抜)

試験科目名 専門科目 ③電気磁気学

I

問1

- (1) 導体球と中心を共有する半径 r の球面を考え、ガウスの法則を適用する。この球面上の電界の大きさを E とすると、 $r > a+t$ では、

$$4\pi r^2 \varepsilon_0 E = Q \quad \therefore E = \frac{Q}{4\pi \varepsilon_0 r^2}.$$

$a < r < a+t$ では、

$$4\pi r^2 \varepsilon E = Q \quad \therefore E = \frac{Q}{4\pi \varepsilon r^2}.$$

導体中では電界は0なので、 $r < a$ では $E = 0$.

- (2) 電位 $V(r)$ は、(1)で得た電界から以下のように求められる。 $r \geq a+t$ では、

$$V(r) = - \int_{\infty}^r \frac{Q}{4\pi \varepsilon_0 r^2} dr = \frac{Q}{4\pi \varepsilon_0 r}.$$

$a \leq r < a+t$ では、

$$V(r) = \frac{Q}{4\pi \varepsilon_0 (a+t)} - \int_{a+t}^r \frac{Q}{4\pi \varepsilon r^2} dr = \frac{Q}{4\pi \varepsilon_0 (a+t)} + \frac{Q}{4\pi \varepsilon} \left(\frac{1}{r} - \frac{1}{a+t} \right).$$

$r < a$ では、

$$V(r) = \frac{Q}{4\pi \varepsilon_0 (a+t)} + \frac{Q}{4\pi \varepsilon} \left(\frac{1}{a} - \frac{1}{a+t} \right).$$

- (3) 求める静電エネルギーを W_e とすると、

$$\begin{aligned} W_e &= \int_a^{a+t} \frac{\varepsilon}{2} E^2 \cdot 4\pi r^2 dr = \frac{\varepsilon}{2} \int_a^{a+t} \left(\frac{Q}{4\pi \varepsilon r^2} \right)^2 \cdot 4\pi r^2 dr \\ &= \frac{Q^2}{8\pi \varepsilon} \int_a^{a+t} \frac{1}{r^2} dr = \frac{Q^2}{8\pi \varepsilon} \left(\frac{1}{a} - \frac{1}{a+t} \right). \end{aligned}$$

問2

- (1) 求める電流を I とすると、

$$\begin{aligned} I &= \int_0^a (kr^2 + h) \cdot 2\pi r dr = 2\pi \left[\frac{kr^4}{4} + \frac{hr^2}{2} \right]_0^a \\ &= \pi a^2 \left(\frac{ka^2}{2} + h \right). \end{aligned}$$

令和5年度(10月期入学)及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解答例	
専攻名	電子情報通信学専攻(一般選抜)
試験科目名	専門科目 ③電気磁気学

- (2) 磁束密度の大きさを B とおき、 z 軸上の点を中心とする半径 r の円においてアンペアの法則を適用すると、 $r < a$ では、

$$2\pi r B = \mu_0 \int_0^r (kr^2 + h) \cdot 2\pi r dr = \mu_0 \pi r^2 \left(\frac{kr^2}{2} + h \right)$$

$$\therefore B = \frac{\mu_0 r}{2} \left(\frac{kr^2}{2} + h \right).$$

$r > a$ では、

$$2\pi r B = \mu_0 \pi a^2 \left(\frac{ka^2}{2} + h \right)$$

$$\therefore B = \frac{\mu_0 a^2}{2r} \left(\frac{ka^2}{2} + h \right).$$

- (3) 点Pにおける磁束密度 B_p の大きさは、 $p > a$ なので、

$$B_p = \frac{\mu_0 a^2}{2p} \left(\frac{ka^2}{2} + h \right)$$

B_p の向きは x 軸の負の向きだから、

$$\mathbf{B}_p = (-B_p, 0, 0)$$

と表せる。よって、微小粒子に働くローレンツ力 \mathbf{F} は、

$$\begin{aligned} \mathbf{F} &= q\mathbf{v} \times \mathbf{B}_p = q(0, -2c, c) \times (-B_p, 0, 0) \\ &= q \begin{vmatrix} \mathbf{e}_x & \mathbf{e}_y & \mathbf{e}_z \\ 0 & -2c & c \\ -B_p & 0 & 0 \end{vmatrix} = q(-cB_p \mathbf{e}_y - 2cB_p \mathbf{e}_z) \\ &= q(0, -cB_p, -2cB_p) \\ &= \frac{\mu_0 q a^2 c}{2p} \left(\frac{ka^2}{2} + h \right) (0, -1, -2). \end{aligned}$$

ここで、 \mathbf{e}_x , \mathbf{e}_y および \mathbf{e}_z は、それぞれ x 軸方向、 y 軸方向および z 軸方向の単位ベクトルである。

専攻名 電子情報通信学専攻

試験科目名 専門科目 ④情報理論

問1 図より,

$$T = \begin{bmatrix} 1-p & p \\ x & 1-x \\ p & 1-p \end{bmatrix}$$

問2 発生確率 $P_{\bar{0}}, P_{\bar{1}}$ は以下の通り。

$$\begin{bmatrix} P_{\bar{0}} \\ P_{\bar{1}} \end{bmatrix} = T^T \begin{bmatrix} P_0 \\ P_n \\ P_1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1-p & x & p \\ p & 1-x & 1-p \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \frac{1}{4} \\ \frac{1}{2} \\ \frac{1}{4} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{1}{4}(1-p) + \frac{1}{2}x + \frac{1}{4}p \\ \frac{1}{4}p + \frac{1}{2}(1-x) + \frac{1}{4}(1-p) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{1}{2}x + \frac{1}{4} \\ -\frac{1}{2}x + \frac{3}{4} \end{bmatrix}$$

問3

公式

$$I(A; B) = \sum_{k=1}^n \sum_{l=1}^m P(a_k, b_l) \log_2 \frac{P(a_k, b_l)}{P(a_k)P(b_l)}$$

から求める。

同時確率は, $P(0, \bar{0}) = P(\bar{0}|0)P_0 = \frac{1}{4}(1-p)$, $P(n, \bar{0}) = P(\bar{0}|n)P_n = \frac{1}{2}x$, $P(1, \bar{0}) = P(\bar{0}|1)P_1 = \frac{1}{4}p$
同様にして, $P(0, \bar{1}) = \frac{1}{4}p$, $P(n, \bar{1}) = \frac{1}{2}(1-x)$, $P(1, \bar{1}) = \frac{1}{4}(1-p)$ となる。

よって,

$$\begin{aligned} I(A; B) &= P(0, \bar{0}) \log_2 \frac{P(0, \bar{0})}{P_0 P_{\bar{0}}} + P(n, \bar{0}) \log_2 \frac{P(n, \bar{0})}{P_n P_{\bar{0}}} + P(1, \bar{0}) \log_2 \frac{P(1, \bar{0})}{P_1 P_{\bar{0}}} \\ &\quad + P(0, \bar{1}) \log_2 \frac{P(0, \bar{1})}{P_0 P_{\bar{1}}} + P(n, \bar{1}) \log_2 \frac{P(n, \bar{1})}{P_n P_{\bar{1}}} + P(1, \bar{1}) \log_2 \frac{P(1, \bar{1})}{P_1 P_{\bar{1}}} \\ &= \frac{1}{4}(1-p) \log_2 \frac{\frac{1}{4}(1-p)}{\frac{1}{4}P_0} + \frac{1}{2}x \log_2 \frac{\frac{1}{2}x}{\frac{1}{2}P_n} + \frac{1}{4}p \log_2 \frac{\frac{1}{4}p}{\frac{1}{4}P_1} \\ &\quad + \frac{1}{4}p \log_2 \frac{\frac{1}{4}p}{\frac{1}{4}P_0} + \frac{1}{2}(1-x) \log_2 \frac{\frac{1}{2}(1-x)}{\frac{1}{2}P_n} + \frac{1}{4}(1-p) \log_2 \frac{\frac{1}{4}(1-p)}{\frac{1}{4}P_1} \\ &= \frac{1}{2}(p \log_2 p + (1-p) \log_2 (1-p)) + \frac{1}{2}(x \log_2 x + (1-x) \log_2 (1-x)) \\ &\quad - \frac{1}{2}(x \log_2 P_{\bar{0}} + (1-x) \log_2 P_{\bar{1}}) - \frac{1}{4}(\log_2 P_0 + \log_2 P_1) \end{aligned}$$

解答例

専攻名 電子情報通信学専攻

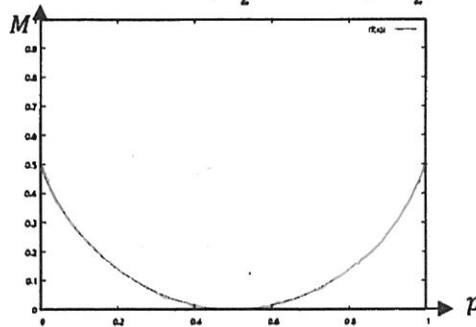
試験科目名 専門科目 ④情報理論

$$= \frac{1}{2}(p \log_2 p + (1-p) \log_2(1-p)) + \frac{1}{2}(x \log_2 x + (1-x) \log_2(1-x)) \\ - P_{\bar{0}} \log_2 P_{\bar{0}} - P_{\bar{1}} \log_2 P_{\bar{1}}$$

問4 $x = \frac{1}{2}$ のとき, $P_{\bar{0}} = P_{\bar{1}} = \frac{1}{2}$ よって,

$$M = \frac{1}{2}(p \log_2 p + (1-p) \log_2(1-p)) + \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2} \log_2 \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \log_2 \frac{1}{2}\right) \\ - \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2} \log_2 \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \log_2 \frac{1}{2}\right) - \frac{1}{4}\left(\log_2 \frac{1}{2} + \log_2 \frac{1}{2}\right) \\ = \frac{1}{2}(p \log_2 p + (1-p) \log_2(1-p)) + \frac{1}{2}$$

図は下記の通り, $p = 0$ または 1 のとき, 最大値 $\frac{1}{2}$ を取り, $p = \frac{1}{2}$ のとき, 最小値 0 を取る。



問5 相互情報量の最大値 M_{\max} が $H(A)$ の値と等しいときは, 送信側の情報が通信路を通して全て受信側に伝わっている状態であるが, 問題の通信路では受信記号から送信記号を確定的に決めることができない。例えば, $p = 0, x = 0$ と遷移を確定的にしても $\bar{1}$ を受信したときには送信記号 n であるか 1 であるかを確定することができず, あいまいさが残る。つまり, 通信路は送信側の全ての情報を伝えることができず, M_{\max} は $H(A)$ と等しくはならない。

令和5年度(10月期入学)及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験
解答例

専攻名	電子情報通信学専攻
試験科目名	専門科目 ⑤アルゴリズムとデータ構造

I.

問1.

- (1) ① p->next ② new
- (2) 0, 1, 2, 3, 4 がこの順番で環状に格納されている。ポインターpは4が格納されているノードを指している。
- (3) 表示される数字は1。また、nとmが一般の正の整数の場合、 $(m-1)\%n$ となる。
- (4) ポインターをpが指すノードの次のノードを環状リストから削除する。
- (5) kが0のループでpが1のある場所に移動し、次の2が削除されて、0, 1, 3, 4の順の環状リストとなる。
kが1のループでpが0のある場所に移動し、次の1が削除されて、0, 3, 4の順の環状リストとなる。
kが2のループでpが3のある場所に移動し、次の4が削除されて、0, 3の順の環状リストとなる。
kが3のループでpが0のある場所に移動し、次の3が削除されて、0だけの環状リストとなる。
- ⑥で0が表示される。

問2.

- (1)

```
void sort(int x[], int s, int t){
    int i, m, tmp;
    for (i = t-1; i > s; i--) {
        m = argmax(x, s, i+1);
        tmp = x[i];
        x[i] = x[m];
        x[m] = tmp;
    }
}
```
- (2)

```
void sort(int x[], int s, int t){
    if(t-s==1)return;
    sort(x, s, (s+t)/2);
    sort(x, (s+t)/2, t);
    merge(x, s, (s+t)/2, t);
}
```
- (3) 選択ソート: $O(N^2)$, マージソート: $O(N \log N)$ 。

令和5年度(10月期入学)及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解答例	
専攻名	電子情報通信学専攻(一般選抜)
試験科目名	専門科目 ⑥論理回路

I

問1

$$(A+B+C)(\bar{A}+B) = B\bar{A} + C\bar{A} + AB + B + CB = C\bar{A} + (1+C)B = C\bar{A} + B$$

問2

$$\begin{aligned} (X \oplus A \oplus B)(X \oplus AB) &= X \oplus ABX \oplus AX \oplus AB \oplus BX \oplus AB = X \oplus ABX \oplus AX \oplus BX = (X \oplus AX) \oplus (BX \oplus ABX) \\ &= (1 \oplus A)X \oplus (1 \oplus A)BX = \bar{A}X \oplus \bar{A}BX = (1 \oplus B)\bar{A}X \\ &= \bar{A}\bar{B}X \end{aligned}$$

問3 (1)

A	B	S	C
0	0	0	0
1	0	1	0
0	1	1	0
1	1	0	1

(2)

$$S = A \oplus B \quad (= \bar{A} \cdot B + A \cdot \bar{B} = (A+B) \cdot \overline{A \cdot B})$$

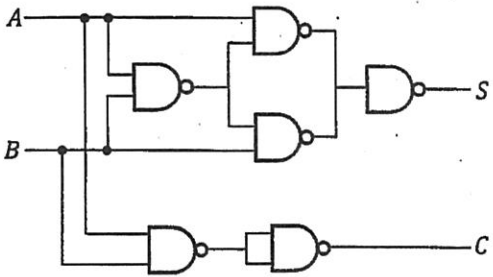
$$C = A \cdot B$$

(3)

XOR と AND の NAND 表現は

$$\begin{aligned} A \oplus B &= \bar{A} \cdot B + A \cdot \bar{B} = A \cdot \bar{A} + \bar{A} \cdot B + A \cdot \bar{B} + \bar{B} \cdot B = A \cdot (\bar{A} + B) + (\bar{A} + \bar{B}) \cdot B \\ &= A \cdot \overline{A \cdot B} + \overline{A \cdot B} \cdot B = \overline{A \cdot A \cdot B} + \overline{A \cdot B \cdot B} = \overline{A \cdot A \cdot B \cdot A \cdot B \cdot B} \\ A \cdot B &= \overline{\overline{A \cdot B}} = \overline{\bar{A} \cdot \bar{B}} = \overline{\bar{A} \cdot \bar{B}} \end{aligned}$$

となるので、共通するゲートをまとめて下図の通りとなる。



令和5年度(10月期入学)及び令和6年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験
 解答例

専攻名	電子情報通信学専攻(一般選抜)
試験科目名	専門科目 ⑥論理回路

II

問1

$$\begin{array}{r}
 A = 1111 \\
 +) B = 1110 \\
 \hline
 A + B = 11101
 \end{array}$$

$\therefore C_0=0, C_1=1, C_2=1, C_3=1$

問2

M が1の時のみ B の代わりに B の2の補数 $\bar{B} + 1$ を入力すればよいので、4ビット加算器に対し

- ① B の代わりに $B \oplus M$ を入力する
 - ② 一桁目の繰り上がり入力に M を入力する
- の2点の変更を加える。

